

卒・業・お・め・で・と・う！

ーアトゥモロックとラムアフス小学校で、合計18名が初等教育を終了しましたー

3月はミンダナオでも卒業式シーズンです。ピラーン族コミュニティー訪問は初めての橋本、相田、石渡、古川、小針の皆さんと山崎の6名が、山の二つの小学校と町のハイスクールを卒業する奨学生の門出を祝いました。

アトゥモロック小学校では、優等賞ほか、ほとんどの賞を総なめにしたメラニーが代表して謝辞を述べました。感動でしばし声を詰まらせる彼女。4年生の時から支援してくれた橋本さんが、この栄えある瞬間を間近で見守ってくれたこと、しかもめでたい船橋馬鹿面踊りで祝福してくれたことが、涙、涙の総代あいさつとなったのでしょうか。

実はこの日、鮮やかな民族衣装を着て誇らしげに壇上に立つアトゥモロック卒業生は8名でなく、10名のはずでした。1月に実施された全国統一卒業試験（NEAT）を受けなかった二人が卒業を前に退学しました。いずれも早婚の風習に逆らえず結婚が決まった子どもと聞きました。数年前に比べるとこのようなケースは減少しましたが、残念です。

卒業できた子どもたちの多くは、6月の新学期には、麓の村ミアソン・バラングイの公立ハイスクール入学を予定しています。歩いて3時間かかるため、学校近くに寮を建設することになり、自給用野菜畑のスペースを含めて用地の提供を打診しました。最近まで険悪だったこの入植者の村ミアソンとアトゥモロック住民との関係は、CMBによる仲介もあって、4月10日には、ミアソンのバラングイキャプテン(村長)から大変好意的な回答が届きました。遊休地を無料で提供するという申し出でした。

この寮建設については、先住民族と入植者、少数民族の教育など、現地の課題を象徴した事業として今回卒業式に参加された相田さんが、地元北海道で、市民の理解、協力要請の呼びかけを企画中です。

コミュニティーリーダー育成のために、マーベルやジェネラルサントスなどの都市の寮から、レベルの高い私立ハイスクールに通わせるというのが、従来のCMB/HANDS奨学金プログラムでした。進学希望者増加により、資金面で厳しくなったほか、親の責任放棄、子どもの側の、民族文化や親に対する拒否反応という問題が出てきました。子どもの成績にもよりますが、できるだけ親元近くで進学、に方針転換しました。これは、ラムアフス卒業生10名についても適用されるはずですが。

\* \* \* \* \*

ー平成12年度教育支援プログラム報告ー

<CMB 運営の小学校現況>

- \* 4小学校合計353名のうち、100名（年度当初は90名）が当会の奨学生です。残念ながら数名が中途退学しました。
- \* 年額3,600円の会費のうち、240ドル（約3,000円）を送金し、現地では個々の奨学生の授業料(年額約1100円のうち850円程度・残額は父母の責任で納付)と、学校全体経費に充当。
- \* サムラング分校閉校：6月の新学期から、28名は近くのバリオピラーン公立小学校に転入します。校舎は住民の研修センターとなります。この結果、CMB運営の小学校は、アトゥモロック、ラムアフスの二つの本校と、キアミ分校の3校のみになりますが、キアミを中心に、生徒総数は増加の予定です。



民族衣装で祝福を受ける卒業生  
(アトゥモロック小学校 3/20)



ND スララハイスクール卒業生

<ハイスクール・カレッジ奨学生情報>

- \* ハイスクールは、8名が卒業、31名が各学年を修了しました：成績優秀のマイケル、ボニファシオ、ビルマは、ミンダナオ州立大学（MSU）進学決定。ビーナとエステレリエタはNDMUの助産婦コース、レナリンは秘書課志望。マルティノとホセは3月末時点で未定。現カレッジ奨学生8名もそれぞれ各課程を修了しました。（平成12年度ハイスクール・カレッジ奨学生数：合計46名）
- \* 奨学金支給実績（各1名当たり）：ハイスクールは年額220ドル、カレッジは550ドル〔会費と寄附充当〕。個々の経費は在籍校により異なります。